

## 3-15. 徳之島エコツアーガイド連絡協議会

(鹿児島県大島郡徳之島町、天城町、伊仙町)

### (1) アドバイザー派遣申請の背景

#### ●地域の概要

【人口】 25,396 人（徳之島三町）

【面積】 247.85 k m<sup>2</sup>

【地勢】

徳之島は、徳之島町、天城町、伊仙町の三町で構成されている。耕地面積が全面積の 27.8% (6,880ha)、林野面積が 43.3% (10,724ha) を占め、兼業を含め農業を中心とした島である。

【気候、自然】

(気候)

亜熱帯気候に属し、一年を通して暖かい。梅雨時の雨の降り方はスコールとなることが比的多くまた、台風の常襲地となっており、毎年平均して 3 回程度、接近している。

(自然)

大陸との接続と分断を繰り返しながら形成された島嶼という地史的な経緯から、アマミノクロウサギ、アマミヤマシギ、オビトカゲモドキなどの固有種や遺存種といった他の地域には見られない動植物が存在します。

井之川岳、犬田布岳、天城岳周辺には、世界の亜熱帯域の中でも限られた地域にしか成立しない亜熱帯照葉樹林がまとまって存在し、希少な野生動物種の生息・生育地となっています。

これらの森林には、奄美大島では簡単に見ることができない壮齢オキナワウラジロガシ林が発達しています。

徳之島の自然植生は地質の影響を受け、島中央の山地帯の酸性土壌上に発達する上記の森林と低平地の弱塩基性土壌の隆起サンゴ礁石灰岩地帯に発達する森林とに大別することができます。琉球石灰岩上の森林としては明眼の森や義名山に自然性の高いアマミアラカシ群落が発達しており希少な植物が多数分布しています。

海岸部では、隆起サンゴ礁の海食崖（犬田布岬、犬門蓋いんのじょうふた等）、花崗岩の露出した海岸（ムシロ瀬）、リーフや自然海浜（喜念浜、畦海岸等）など、特徴的な資源が存在します。

島の北東部にはサンゴ礁が発達し、多くの生き物の棲みかとなっています。沿岸の砂浜ではウミガメの上陸・産卵などの様子が観察できます。

浅間干潟はクロツラヘラサギをはじめとする年間 150 種余りの渡り鳥の中継地となっています。

【歴史】

古くには琉球王朝に統治されていたが、島津藩の侵略により島津藩の領土となる。

昭和 20 年にはアメリカ軍の侵略により米軍の統治下となる。昭和 28 年 12 月日米交渉により奄美群島が本土に復帰し、鹿児島県に編入される。

【観光】

一般的な観光利用は、海岸沿いの犬田布岬、犬之門蓋、金見崎やムシロ瀬などにおける風景探勝等による島内周遊利用が多いと考えられます。また、闘牛も大きな観光資源となっています。

海域の主な利用としては、畔海岸などでの海水浴・スノーケリングや、ダイビング等が行われています。

森林地域の利用は多くはありませんが、近年ではクロウサギ等の希少動物の観察を目的としたナイトツアー、森林や川での自然観察、伝統的な集落の散策等について、ガイドによる案内も実施されています。

※奄美群島エコツーリズム推進全体構想より抜粋

#### 【地域資源の概要】

集落内町歩きのほか、世界自然遺産に向けた取組みの中、徳之島内でもコアな資源の多い三京（みきょう）地区の自然を見ていただき、地域のマップ作りやモデルコース作りの案や実践に向けたアドバイスをいただきたい。また、意識啓発のためのワークショップを関係者へ行っていただきたい。

### ●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

平成 25 年度に奄美群島広域事務組合を中心に奄美群島の各島々にエコツアーガイド連絡協議会とエコツーリズム推進協議会を設立し、現在は奄美群島広域事務組合の研修を中心に活動している。しかしながら、島独自での取り組み方法が確立されておらず、今後徳之島独自の取り組み強化が課題となっている。

アドバイザー派遣事業は平成 26 年度に奄美群島広域事務組合主催で本事業を天城町役場 4 階で海津先生を中心にシンポジウムを開催しております。

今回は新たなプレイヤーの意識啓発、参加への課題等を把握するためにアドバイザー派遣申請を行いました。

### (2) アドバイザー派遣の実施概要

日	時	平成 28 年 2 月 17 日（水）～平成 28 年 2 月 19 日（金）	
場	所	徳之島町金見集落，天城町西阿木名三京集落，伊仙町阿権集落	
ア	ド	公益財団法人日本環境教育フォーラム 理事長 川嶋 直氏	
バ	イ		
イ	ザ		
ザ	ー		
参	加	者	計 18 名
ス	ケ	ジ	ュ
ケ	ー	ル	・
方	法		
			【1 日目】天城町 観光地案内
			【2 日目】徳之島町集落案内プログラム、天城町林道案内プログラム
			【3 日目】伊仙町散策プログラム

### (3) アドバイスの内容（議事録）

金見集落、三京集落ともにエコツアーを行うにあたって、そのプログラムを体験した人に「どうなって欲しいのか」、「何のために行っているのか」を明確化することが必要だとアドバイスをいただきました。

例えとして、プログラムを実施して「徳之島が豊になることが目的です。」など目的をしっかりとすることでプログラムの伝え方も変わってくるとのアドバイスでした。

また、現状は開始したばかりということで島外者向けだけではなく島内の住民を対象に考えて行うのも先駆けて良いかもしれないとのご意見もいただきました。

そして、もっとも大切なことは体験を行っていただいた方々からの感想をもらうことが今後のプログラムをよくするためにもっとも必要であるとアドバイスいただきました。

伝えるための材料は多いと感じたので、誰に対してどのように伝えたいのかを、今後しっかりとプログラム化していくことが必要だとのことでした。

今回、自分たちが行っているプログラム以外の集落の案内を見ることが出来たため、今回のように他の地区のプログラムを各々が見ながら成長していく方法も大事だとアドバイスをいただきました。

懇親会では、金見集落のソテツトンネルの活かし方や三京集落のオキナワウラジロガシの板根の活かし方などの案もいただき、中でも案内者の方々が基本的なことで聞いてびっくりしていたことは、「案内者（話し手）は太陽をみてしゃべるのが基本です。」とのアドバイスでした。これまでは無頓着だったと反省もしておりました。

今後も徳之島三町協力体制のもと、今回のアドバイスを活かし改善していけるよう取り組みたいと思います。

#### 【状況写真】



金見集落



三京集落



阿権集落



天城町役場会議室

## (4) アドバイザー派遣実施の効果

---

### 1) 参加者や関係者に与えた効果

今後の各プログラム実施のための自信につながり、またこれからプログラムを行うために必要なことを学べたと思われる。

今後も今回のような取組みを行い少しずつプログラムのレベルアップを図りたいと思います。

### 2) 今後、期待される効果（具体的な活動の展開など）

定番となるメニューを早めに作り上げていくことが必要だと参加者にも分かっていたかと思われる。今回プログラムを行った皆様が先進者として取組みを行っていくことに期待したい。

### 3) 今後の取組み

今回実際にアドバイザーに来ていただき参加者と意見交換をすることにより、参加者からも、また来ていただいてアドバイスをいただきたいとの声もあり、現状から少しずつ改善し今後エコツーリズムが徳之島全体に浸透していけるような取組みが必要だと感じました。

今後もいろいろな事業等でアドバイス等をいただきながら少しずつ前進していければと思います。

## (5) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

---

### 1) 参考となった事項

ほとんどは、上記に記載しております。

アイスブレイクの方法を説明していただきましたが、自然を相手に出来るプログラム形式のものが多く、参加者も次回より試してみたいとの意見も多数ありました。

また、体験の感想の際に、仕事についての考え方を少し話していただきましたが、「月に15万円の収入が必要なら、月5万円の仕事を3つ行えばよいのでは。」との話があり、仕事の少ない徳之島においてこの考え方はとても参考になりました。

## (6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

川嶋 直氏（公益財団法人日本環境教育フォーラム 理事長）

### 1) 地域における取組の現状と取組

#### ①現状の取組

奄美地域広域でエコツーリズムへの取り組みを始めたところ。「エコツーリズム推進法に基づく全体構想認定」に向けてもその途上と聞いています。（詳細：どの段階にいるのかは確認していません）

徳之島の3町（天城・徳之島・伊仙町）それぞれで、ツアー受け入れに向けて具体的なツアープログラムを模索中。ただ「あまみシマ博覧会」というプログラム広報誌には現在15の体験プログラムを掲載しており、「あまみシマ博覧会」経由でいくつかのツアーへの申し込みを受けている模様。エコツーリズム推進の協議会・エコツアーガイドの協議会とも組織されているが、まだ実態としてのツアープログラムは試行段階という感じであった。

#### ②課題

徳之島へのマストツーリズムを含めた観光自体がまだ大きく産業化されていない現状なので、「マスをエコに変える」というより、新しいエコツアーのお客様をゼロから発掘するという印象を受けた。それはそれである意味やりやすい状況とも言える。白いキャンバスに絵の具を塗るほうが、すでに色の付いているキャンバスに色を塗り直すより簡単だし、より綺麗に塗ることが出来ると思うから。

### 2) 特に魅力を感じた地域資源等

#### ①魅力を感じた地域資源

今回は天城町の金見（かなみ）集落で歴史・文化誌を辿るツアー、同じく天城町の三京（みきょう）集落で自然の魅力に触れるツアー、さらに伊仙町の阿権（あごん）集落で地域の暮らしを巡るツアーを体験させていただいた。

金見：ソテツのトンネルには大きな魅力を感じた。400年ほど前から畑の境界に植えられたソテツが素晴らしいトンネルになって、迷路のように数百メートル広がっている様子には非常に魅力を感じた。

三京：自然観察会という感じのツアーだったが、奄美地方の自然環境に日常的に触れていない環境客には新鮮なものも多いと思う。今回はむしろツアー終了後にガイドを務めた区長さんの実家でいただいた、白玉餅・インギユム・タンカン味のシフォンケーキ・薬草茶などが素朴で美味しく、そちらに魅力を感じた。

阿権：ツアー起点の「300年のガジュマル」が圧倒的な存在感。その他陶器の便器も、石垣も全て私有地の中にあるものを開放していて、その仕組みを作った町に驚きを感じた。案内の内山さんも非常にガイド慣れしていて、まるで「ブラタモリ」の実体験をしている感じだった。また、ツアー終点でいただいた昼食（ワンプレートランチ）は絶品で、食後の泡ほうじ茶（ふり茶）など、「体験出来る食」の要素もあり、阿権は徳之島のエコツアーのトップランナーという印象を受けた。

### 3) アドバイス（講義等）の概要

そもそも何のためのエコツアーをするのか？について皆で様々な方向性を出し合って確認することが大事ではないか。

- ・ ツアーをすることによって、どんな状況が生まれることを望んでいるのか？この町が・島が・自分たちがどうなりたいたいのか？このことをひとつにまとめなくても良いので、島民（エコツアー関係者）で意見を交換するべきではないか。
- ・ ツアーの対象者が誰なのか、漠然とではなく、いくつかの可能性を明確にして、その対象者に、ツアーが終わった時点でどんな心持ちになって欲しいのかを明確にイメージしたら良い。
- ・ ツアーのプログラム（組み立て）を意識すること。（モデルプログラムを作ってみること）
- ・ 町をまたいで、あるいは集落をまたいで、お互いにプログラムを見せ合い、お互いに率直な感想を言い合うことを積極的に進めて、それを習慣化したらどうか。
- ・ プログラムを成長させるためには、プログラム終了時に参加者から上記フィードバックをいただくことやアンケートを書いていただくことが重要。
- ・ アンケートには必ずしも本当のことは書いてくれない。良い方法は参加者に「どんな些細な事でも良いので気付いたことを書いて欲しい。可能であれば改善提案も書いて欲しい」「このアンケートが私達の成長を助ける重要な情報になるので、どうぞ率直に書いて欲しい」などと御願いをして、ネガティブな情報を積極的に集める。
- ・ 山梨・清里のキープ協会という施設で参加体験型の教育プログラムがどのようにして育ててきたのか、写真を見ていただきながら説明した。
- ・ その他、ガイドに関する細かいアドバイスは2日目夜の懇親会の席で伝えた他、別途書面で提出する約束をしている。

#### 4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

##### ①全体構想への取組状況について

すでに奄美地方全体で認定への取り組みを始めている。

##### ②全体構想策定への意向について

(上記)

##### ③全体構想認定に向けて、今後必要なこと

何よりも具体的な実践例を1つでも多く積み上げ、ツアーそのもの&ガイドの経験知を高めてゆくことでしょう。

#### 5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

3町それぞれの取り組みを行っているが、それぞれの担当者がチカラを合わせて取り組みを進めていると感じた。また、同じ町内でも集落毎の取り組みやその魅力（人・自然・文化・歴史）をお互いにまだ知らない部分も多いようなので、相互にツアーを実施して、まずは町民を対象にしたツアーを数多く実施し、そこで相互理解を図るとともに、お互いのプログラムやガイドの技量も高め合うような試みから始めたら良いのではないかと思った。